

令和元年(2019年)7月期 決算概要

サムコ 株式会社

証券コード: 6387



お陰様で設立40周年を迎えました

40th
Anniversary
samco
1979 - 2019



株式会社サムコインターナショナル研究所からサムコ株式会社へ社名変更。

上海事務所を開設。2004

生産技術研究棟を完成。2002

台湾事務所を開設。

日本証券業協会店頭市場(ジャスダック)に上場。2001

1998 量産用ICPエッチング装置RIE-101iPCを開発。

1997 セミ量産用ICPエッチング装置RIE-200iPを開発。

1995 RIE装置RIE-10NRを開発。

東海営業所、つくば営業所を開設。1993

研究開発センター、第2工場を完成。1991

1990 液体ソース®CVD装置PD-240を開発。

シリコンバレーにオプトフィルムス研究所を開設。1987

新社屋完成により、本社を移転。1985

東京営業所を開設。1984

1982 マルチチャンバーシステム®PDM-303を開発。

1981 化合物半導体製造用MOCVD装置を開発。

1980 半導体プロセス用I大型CVD装置を開発。

1979 株式会社サムコインターナショナル研究所を設立。創業者の仕様が京都市伏見区のガレージで創業。

マレーシア事務所を開設。

第二生産技術棟を完成。2016 Aqua Plasma®クリーナーAQ-2000を開発。

東京証券取引所市場第一部銘柄へ指定。2014

東京証券取引所市場第二部へ上場市場を変更。2013 量産用ICPエッチング装置RIE-600iPC、RIE-800iPBCを開発。

2012 SiCパワーデバイス用ICPエッチング装置RIE-600iPを開発。

シンガポール支店を開設。2011

アメリカ東部事務所、北京事務所を開設。2010

韓国事務所、台湾サムコグローバルサービスを開発。2008 LED量産用ICPエッチング装置RIE-330iPCを開発。

2006 MEMS用高速Siディープエッチング装置RIE-800iPBを開発。



化合物半導体デバイス用
ICPエッチング装置

RIE-200iPN

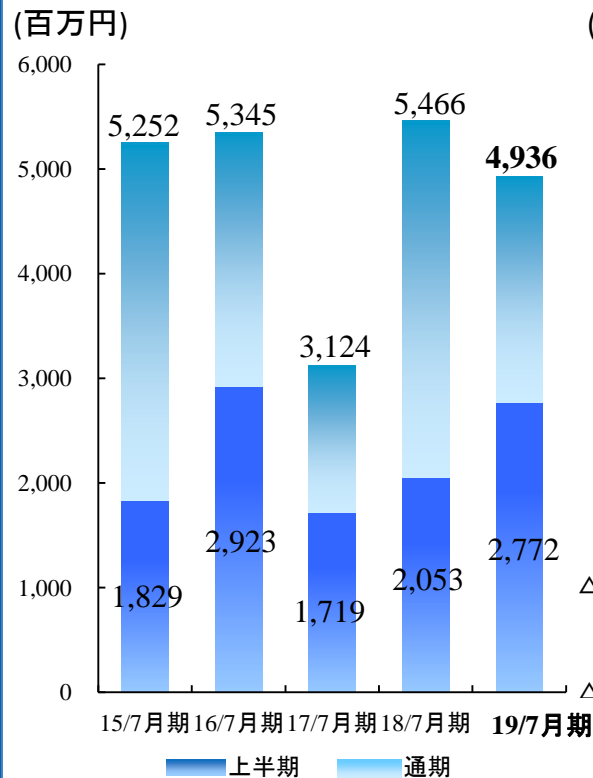
40年で、
4000台の装置が、
30カ国に納品されました。



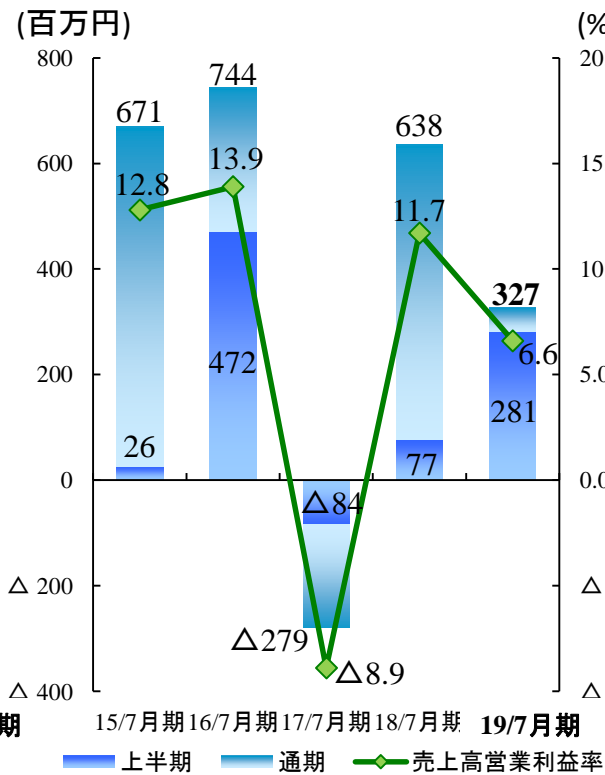
1. 19/7月期の実績

財務・業績ハイライト

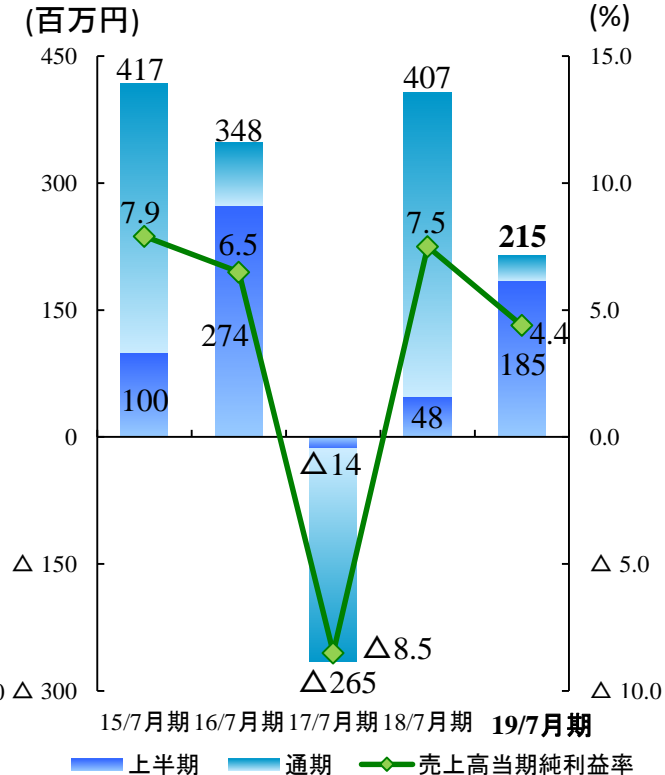
売上高



営業利益 / 売上高営業利益率



当期純利益 / 売上高当期純利益率



19/7月期 実績報告

(単位:百万円)

		18/7月期	19/7月期	前期比増加率
売上高	Net Sales	5,466	4,936	△ 9.7 %
売上総利益	Gross Profit	2,596	2,270	△ 12.5 %
売上高総利益率	Gross Profit Ratio	47.5 %	46.0 %	—
営業利益	Operating Profit	638	327	△ 48.6 %
経常利益	Ordinary Profit	642	305	△ 52.5 %
当期純利益	Net Income	407	215	△ 47.1 %

- スマートフォン市場の需要低迷および米中貿易摩擦の影響により、受注高が4,991百万円と伸び悩む。

19/7月期 装置別売上高

(単位:百万円)

	18/7月期		19/7月期		前期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
CVD装置	903	16.5 %	429	8.7 %	△ 52.5 %
エッチング装置	3,332	61.0 %	2,801	56.8 %	△ 15.9 %
洗浄装置	501	9.2 %	762	15.4 %	52.0 %
部品・メンテナンス	728	13.3 %	942	19.1 %	29.5 %
Total	5,466	100.0%	4,936	100.0%	△ 9.7 %

- CVD装置では、18/7月期に伸長したオプトエレクトロニクス分野と電子部品分野がともに低調。20/7月期に巻き返しを狙う。
- 洗浄装置では、オプトエレクトロニクス分野向けの販売が270百万円、電子部品分野が191百万円に増加。
- 部品・メンテナンスは、近年の生産用装置の販売拡大に伴って増加。

19/7月期 分野別売上高

(単位:百万円)

	18/7月期		18/7月期		前期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
オプトエレクトロニクス分野	1,906	34.9 %	1,484	30.1 %	△ 22.1 %
電子部品・MEMS分野	1,826	33.4 %	1,598	32.4 %	△ 12.5 %
シリコン分野	452	8.3 %	426	8.6 %	△ 5.9 %
実装・表面処理分野	455	8.3 %	234	4.8 %	△ 48.5 %
その他分野	97	1.8 %	249	5.0 %	156.7 %
部品・メンテナンス	728	13.3 %	942	19.1 %	29.5 %
Total	5,466	100.0%	4,936	100.0%	△ 9.7 %

- オプトエレクトロニクス分野では、前期の牽引役であったLD向けの販売が前期比37.4%減の939百万円と振るわず。
- 電子部品分野では、パワーデバイス向けの販売が487百万円、センサ向けが428百万円に拡大したが、高周波フィルタ向けが226百万円と振るわず。

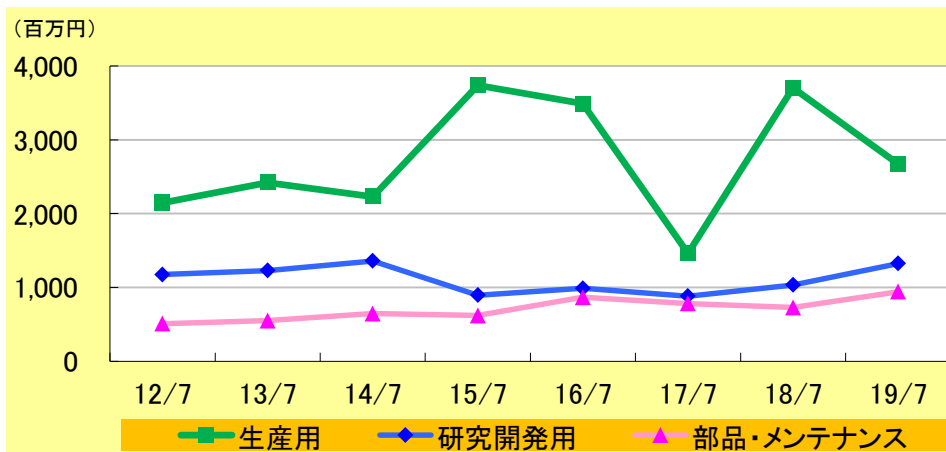
本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を行わないようお願い申し上げます。

19/7月期 用途別売上高

(単位:百万円)

	18/7月期		19/7月期		前期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
生産用	3,705	67.8 %	2,669	54.1 %	△ 28.0 %
研究開発用	1,032	18.9 %	1,323	26.8 %	28.2 %
部品・メンテナンス	728	13.3 %	942	19.1 %	29.5 %
Total	5,466	100.0%	4,936	100.0%	△ 9.7 %



- 生産用では、電子部品分野のセンサ向けとパワーデバイス向けの販売が拡大したが、オプトエレクトロニクス分野のLD向けが振るわず。
- 研究開発用では、パワーデバイス向けの販売が拡大。

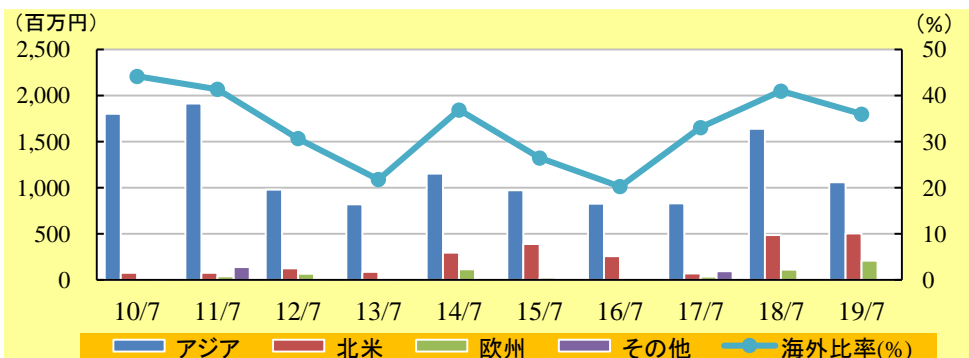
本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を無断で行わないようお願い申し上げます。

19/7月期 地域別売上高

(単位:百万円)

	18/7月期		19/7月期		前期比 増減率
	売上高	構成比	売上高	構成比	
国内	3,223	59.0 %	3,161	64.0 %	△ 1.9 %
アジア	1,641	30.0 %	1,061	21.5 %	△ 35.4 %
北米	488	8.9 %	504	10.2 %	3.2 %
欧州	112	2.1 %	209	4.3 %	86.3 %
その他	—	0.0 %	—	0.0 %	—
(海外合計)	2,242	41.0 %	1,774	36.0 %	△ 20.9 %
Total	5,466	100.0%	4,936	100.0%	△ 9.7 %



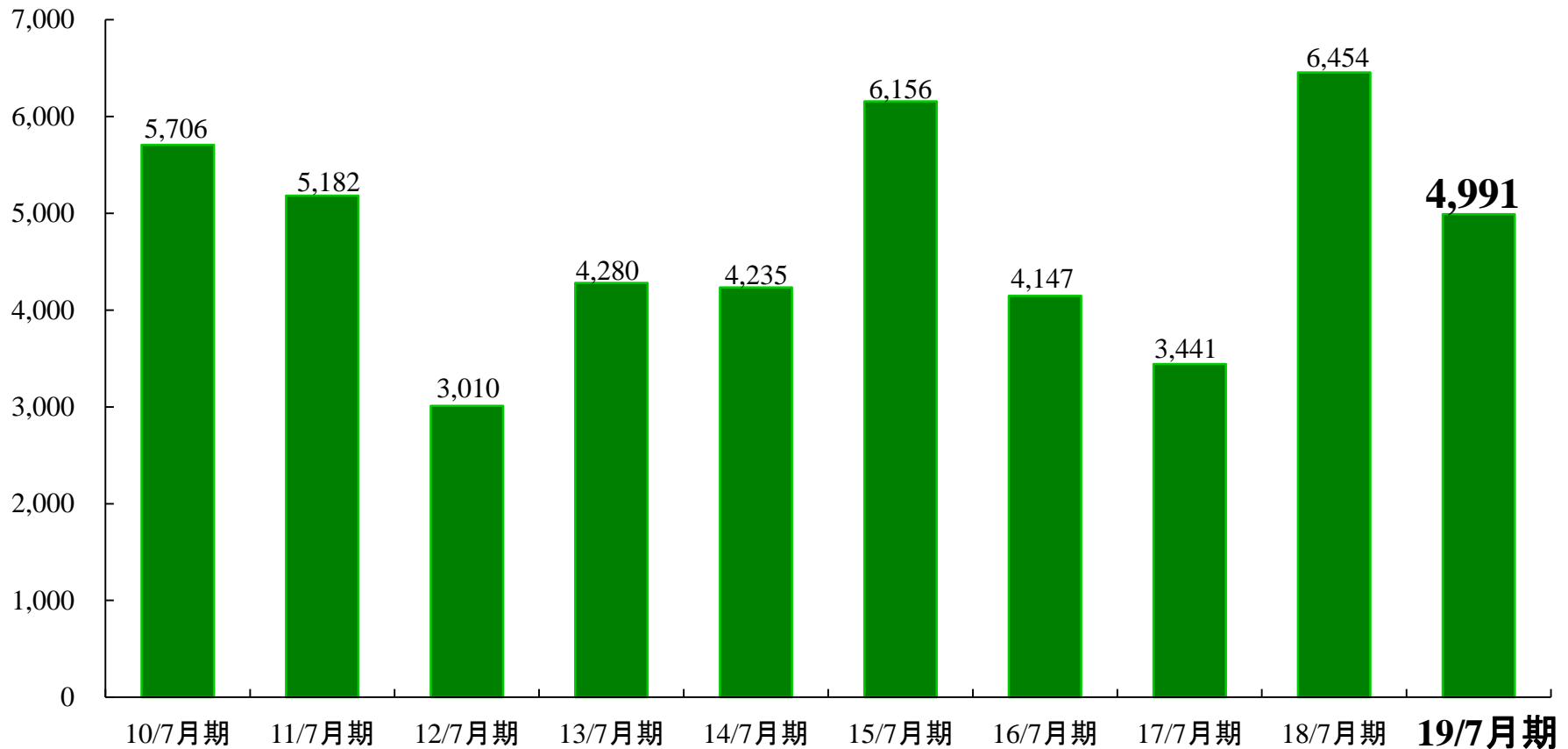
- スマートフォン市場の需要低迷により、アジアの高周波フィルタ向けの販売が激減。
- 欧州では、電子部品分野のセンサ向けの販売が139百万円。

本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を無断で行わないようお願い申し上げます。

受注環境(受注高)の変化

(単位:百万円)

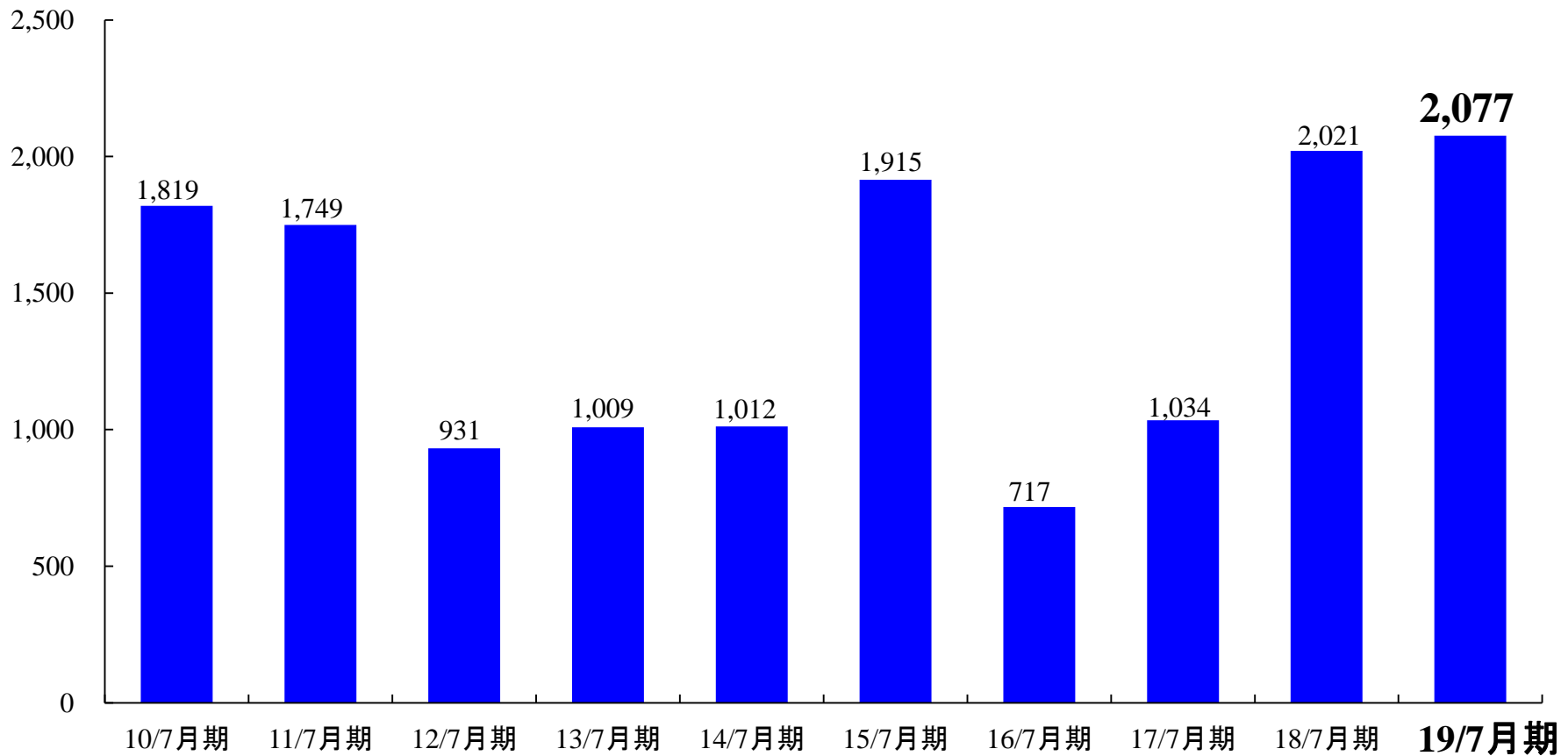


本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を無断で行わないようお願い申し上げます。

受注環境(受注残)の変化

(単位:百万円)



本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を無断で行わないようお願い申し上げます。

2. 20/7月期事業計画

中期経営計画(20/7月期-22/7月期) 概要

“売上高200億円に向けた脱皮”

経営理念 薄膜技術で世界の産業科学に貢献する

中期経営計画方針

- ① 独創的な技術を創造し、市場は世界
- ② グローバルニッチ市場でのリーディングカンパニーとして最先端の製品・サービスを提供し、市場占有率を上げる
- ③ 高付加価値経営により事業の社会的責任を果たす

中計数値目標(22/7月期)

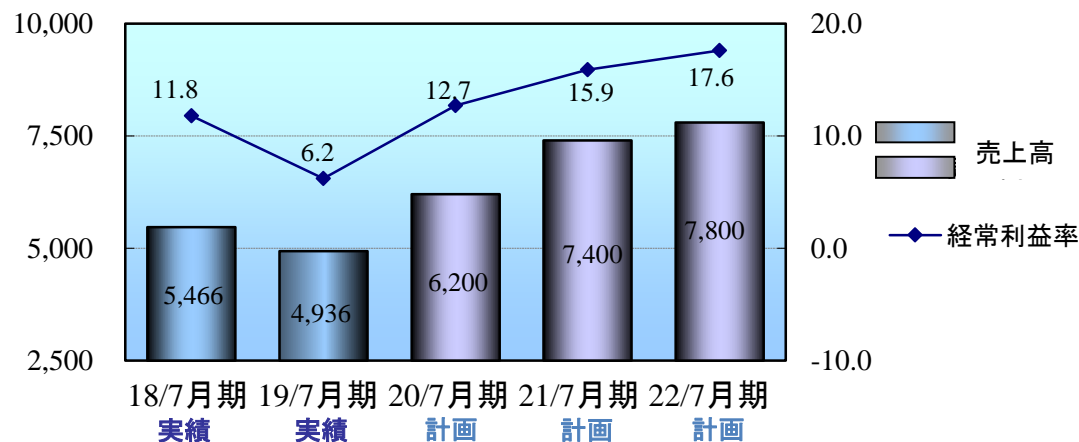
- I 営業利益率17%以上
- II 海外売上高比率50%超
- III 売上高総利益率50%の確保
- IV 新規事業分野の創出(年間売上高10億円)

中期経営計画 目標数値

(単位:百万円)

既存事業における 数値目標	18/7月期 実績	19/7月期 実績	20/7月期 計画			21/7月期 計画	22/7月期 計画
			上半期	下半期	通期		
売上高	5,466	4,936	3,000	3,200	6,200	7,400	7,800
売上総利益	2,596	2,270	1,400	1,495	2,895	3,590	3,900
営業利益	638	327	335	415	750	1,190	1,380
経常利益	642	305	320	400	720	1,180	1,370
当期純利益	407	215	215	275	490	800	920
海外売上高比率	41.0 %	36.0 %			45.2 %	50.0 %	53.4 %
R O E	5.0 %	2.6 %			5.8 %	8.9 %	9.5 %

(単位:百万円)



新規事業分野を含め
 2022年7月期以降に
 売上高100億円超を
 目指す！

20/7月期の重点課題

I 海外販売の拡大

- ◆22/7月期 海外売上高41億円に向けての市場開拓・拡販
- ◆海外サービス体制の構築、拠点拡充

II 成膜装置販売の拡大

- ◆製品ラインナップ見直し、装置の性能向上
- ◆デモ拠点整備、お客様との連携拡大

III 新規事業の立上げ

- ◆マイクロ流路チップの接合技術の確立及び流路加工技術開発とビジネス化
- ◆滅菌器販売の事業化 ～ 装置完成と1号機の販売(2020年春)
- ◆新たな事業創出に向けた取り組み

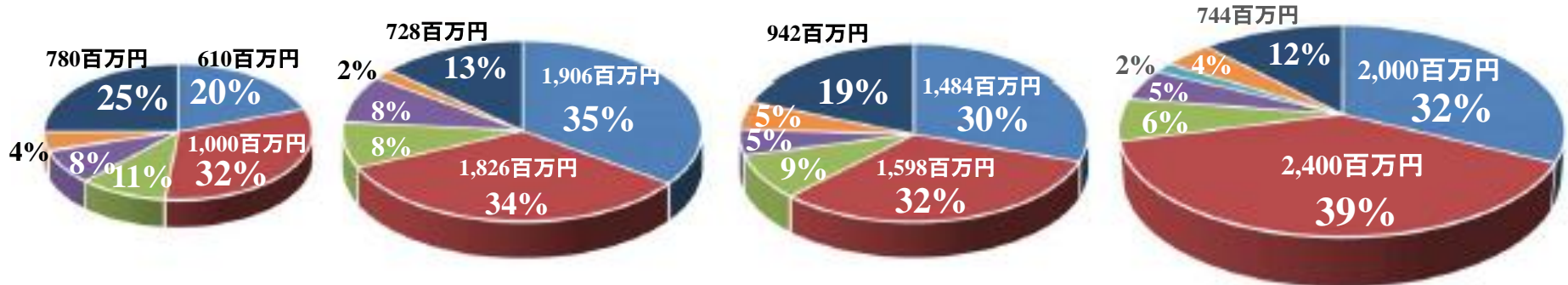
分野別売上高の推移 17/7月期～20/7月期

17/7月期実績
3,124百万円

18/7月期実績
5,466百万円

19/7月期実績
4,936百万円

20/7月期計画
6,200百万円



■ オプトエレクトロニクス分野
■ 実装・表面処理分野
■ 部品・メンテナンス

■ 電子部品・MEMS分野
■ 表示デバイス分野

■ シリコン分野
■ その他分野

複数の重点分野で売上を拡大

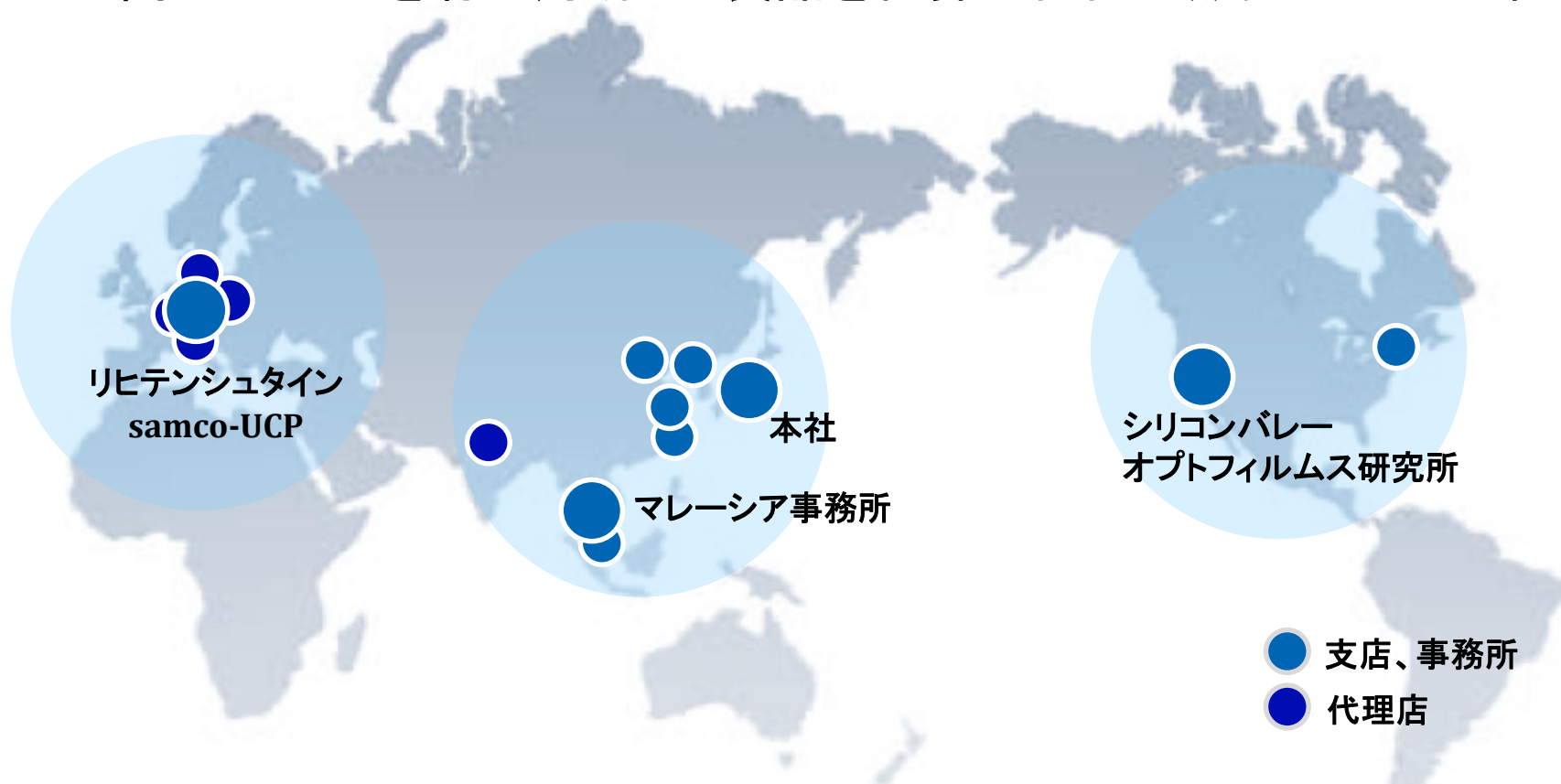
20/7月期 分野別売上高 見込

(単位:百万円)

		19/7月期実績		20/7月期見込		前期比
		売上高	構成比	売上高	構成比	増減率
オプトエレクトロニクス 分野	LD	939	19.0 %	1,125	18.1%	19.8%
	LED	215	4.4 %	95	1.5%	△ 55.9%
	センサ	83	1.7 %	115	1.9%	38.2%
	レンズ	—	0.0 %	40	0.7%	—
	その他	246	5.0 %	625	10.1%	153.4%
	計	1,484	30.1 %	2,000	32.3%	34.7%
電子部品・MEMS 分野	高周波フィルタ	226	4.6 %	741	12.0%	227.3%
	高周波デバイス	131	2.7 %	173	2.8%	32.0%
	プリンターヘッド	66	1.3 %	170	2.7%	154.1%
	センサ	428	8.7 %	411	6.6%	△ 4.1%
	パワーデバイス	487	9.9 %	531	8.6%	9.0%
	積層コンデンサ	—	0.0 %	40	0.6%	—
	その他	258	5.2 %	334	5.4%	29.3%
計		1,598	32.4 %	2,400	38.7%	50.1%
シリコン分野		426	8.6 %	400	6.5%	△ 6.1%
実装・表面処理分野		234	4.8 %	300	4.8%	27.8%
表示デバイス分野		—	0.0 %	100	1.6%	—
その他分野		249	5.0 %	256	4.1%	2.6%
部品・メンテナンス		942	19.1 %	744	12.0%	△ 21.1%
合 計		4,936	100.0 %	6,200	100.0%	25.6%

グローバル中堅企業を目指す！

～ 高い収益力を有し、独自の製品を世界で自由に販売できる企業 ～



海外売上高比率を2019年7月期の36%から2022年7月期に50%超へ

本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を無断で行わないようお願い申し上げます。

アジア市場 取り組み・現況(19/7月期)

中国

- LD生産用エッチング装置を受注
- MEMS研究用CVD装置、エッチング装置、洗浄装置等計5台を販売
- SiCパワーデバイス生産用洗浄装置を販売
- SiCパワーデバイス生産用エッチング装置を受注
- 光センサ生産用CVD装置、洗浄装置を販売
- VCSEL生産用エッチング装置他4台を販売

台湾

- LD生産用エッチング装置を販売
- SiCパワーデバイス研究用エッチング装置を販売

アジア市場 取り組み・現況(19/7月期)

韓国

- Si欠陥解析用大型エッチング装置を販売
- 赤外線センサ生産用エッチング装置、CVD装置を販売
- SiCパワーデバイス開発用エッチング装置を販売

シンガポール

- 高周波フィルタ生産用洗浄装置を販売

インド

- MEMS開発用エッチング装置を販売

北米・欧州・その他市場 取り組み・現況 (19/7月期)

北米

- GaN高周波デバイス生産用洗浄装置を販売、追加受注
- 光フィルタ生産用CVD装置を受注
- 高周波デバイス生産用エッチング装置を受注
- 化合物系デバイス研究用エッチング装置、CVD装置を販売
- LD生産用エッチング装置を販売

欧州

- 車載用センサ生産用エッチング装置6台を販売

アフリカ

- MEMS研究用エッチング装置を受注

重点分野

① オプトデバイス分野

- データセンター用などVCSELを含む通信用LD用途。
- 車載用高輝度LED・LD、ディスプレイ用マイクロLED用途。

② 電子部品分野

- FBAR等スマホ用高周波フィルタ、薄膜コンデンサ用途。
- 加速度センサ、超音波センサ等車載用各種センサ用途。
- 次世代パワーデバイス向けゲート酸化膜形成用ALD装置を拡販。

③ 洗浄・表面処理分野

- アクアプラズマ“AQ-2000”の拡販。
- 大型樹脂基板用洗浄装置の拡販。

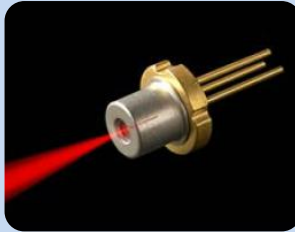
重点分野

① オプトデバイス分野

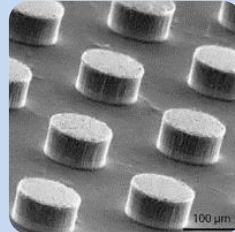
～ LD・LED・マイクロLED・光学レンズなどの加工～

製造される
デバイス

LD
(半導体レーザ)



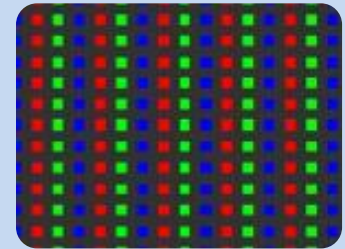
VCSEL
(面発光レーザ)



LED
(発光ダイオード)



マイクロLED

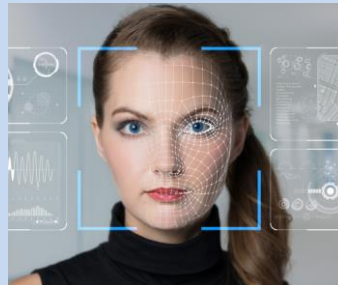


最終製品

データセンター



3D顔認証システム



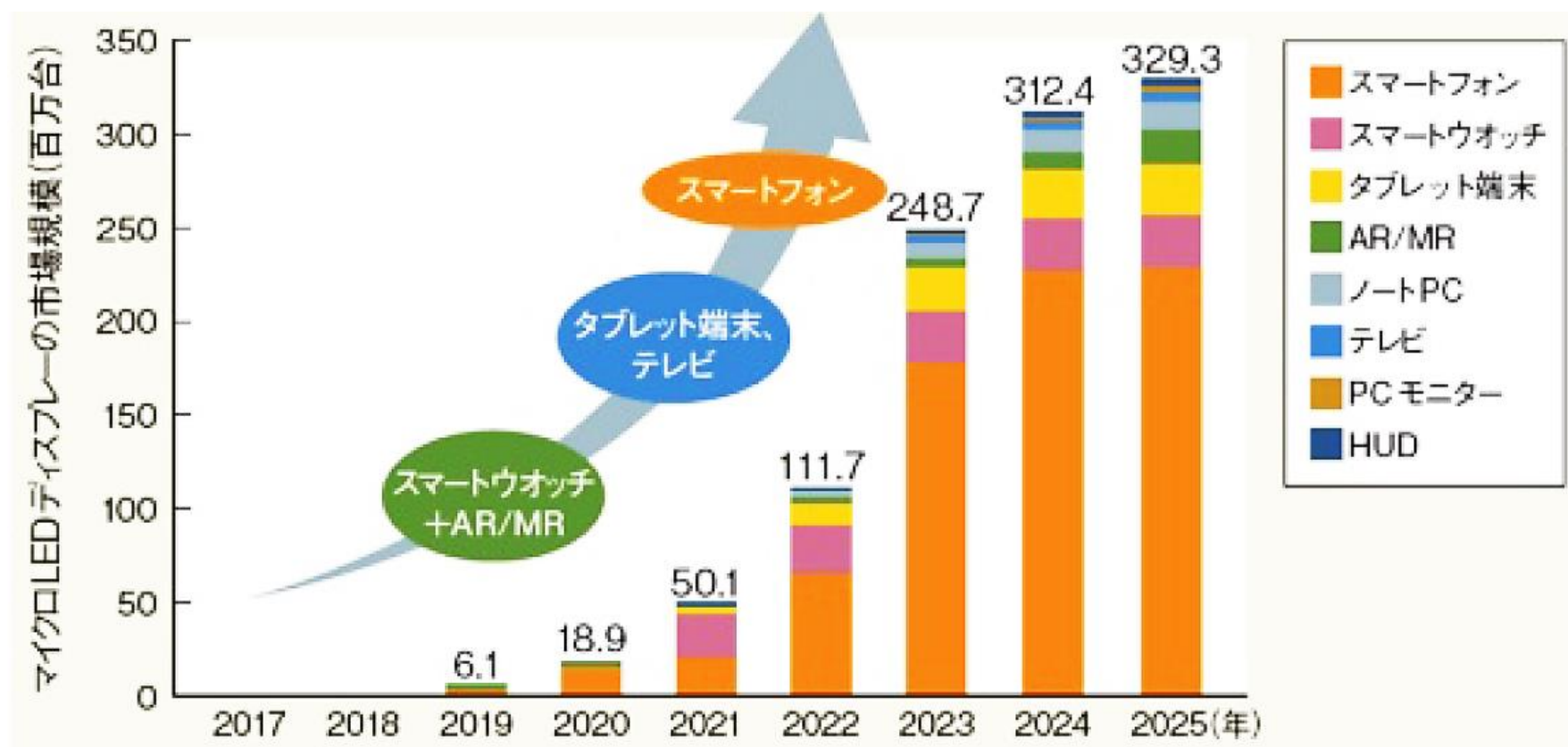
自動車
ヘッドランプ・バックランプ



マイクロLEDディスプレイ



マイクロLEDディスプレイの市場規模



出典: Yole Développement、

日経エレクトロニクス、マイクロLEDがディスプレイ革新、「モノリシック化」で課題解消

本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を行わないようお願い申し上げます。

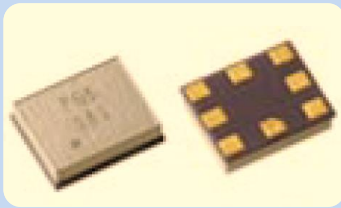
重点分野

②電子部品分野

～高周波フィルタ・MEMS・パワーデバイスなどの加工～

製造される
デバイス

FBAR



SAWフィルタ



マイクロマシン



センサ



パワーデバイス



最終製品

スマートフォン



プリンター



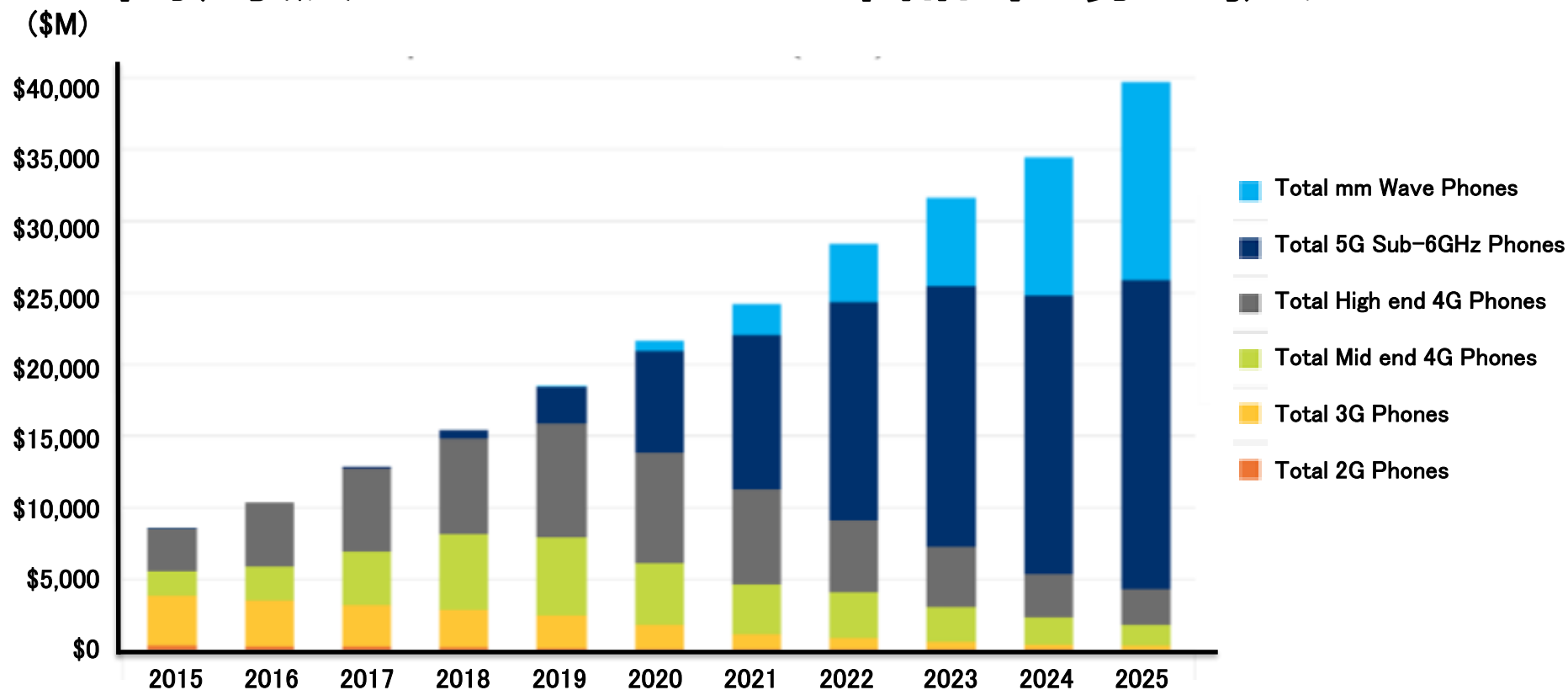
車載用各種機器



新幹線



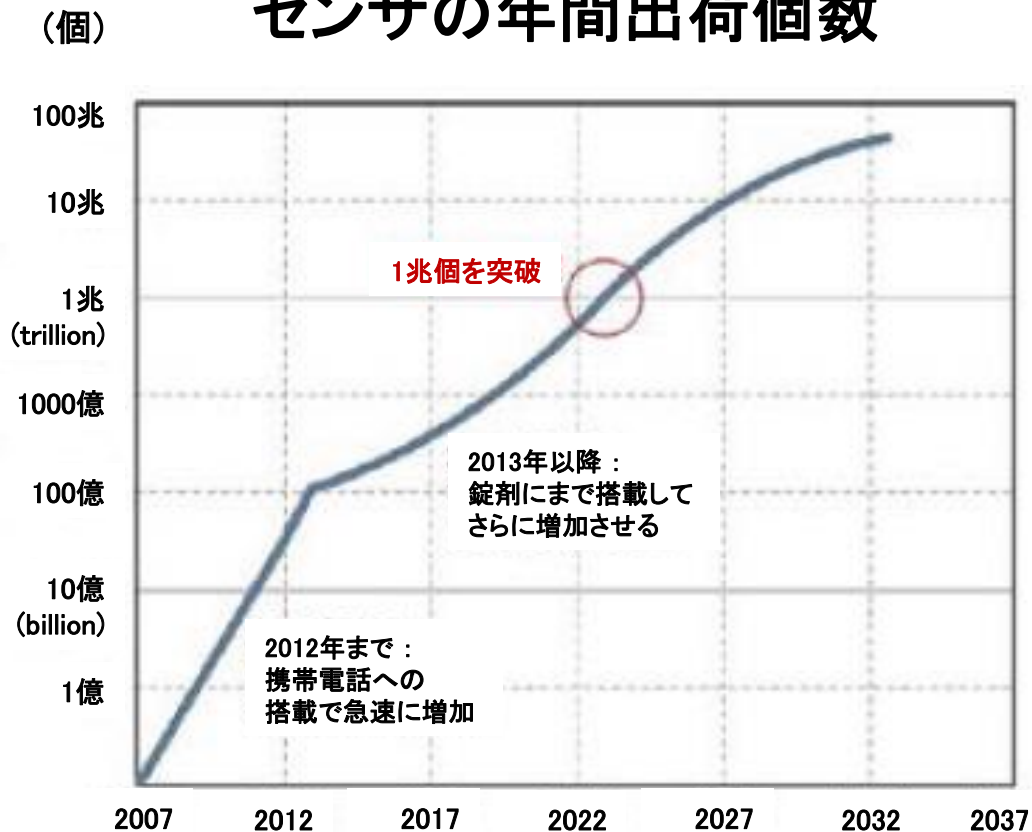
5Gの牽引による 高周波フロントエンド部品市場の拡大



出典: Yole Développement

モノとモノがつながるトリリオンセンサ社会

センサの年間出荷個数



世界のセンサ生産数は、2007年に1000万個、その後、年220%の伸び率で2012年に35億個に増加。

2020年前後には、年間1兆個のセンサ生産が予測される。

『トリリオンセンサ社会』の到来でモノとモノとがセンサとデジタルネットワークでつながる。

出典：ローム

次世代、次々世代パワーデバイス世界市場



出典: 富士経済

本資料の著作権その他の一切の権利は、サムコ 株式会社に属しております。

複製、転送、第三者への配布等を行わないようお願い申し上げます。

重点分野

③洗浄・表面処理分野

Aqua Plasma® クリーナー

Model: AQ-2000



還元に、**接合**に、**水**が効く。
画期的プラズマ処理技術。



水蒸気 (H₂O) を原料に金属酸化膜の還元、有機汚れの洗浄、樹脂接合、超親水化などの表面処理を、安全で環境に優しく行うことが可能。

電子デバイス分野でのCOPの接着剤レス接合にも有効

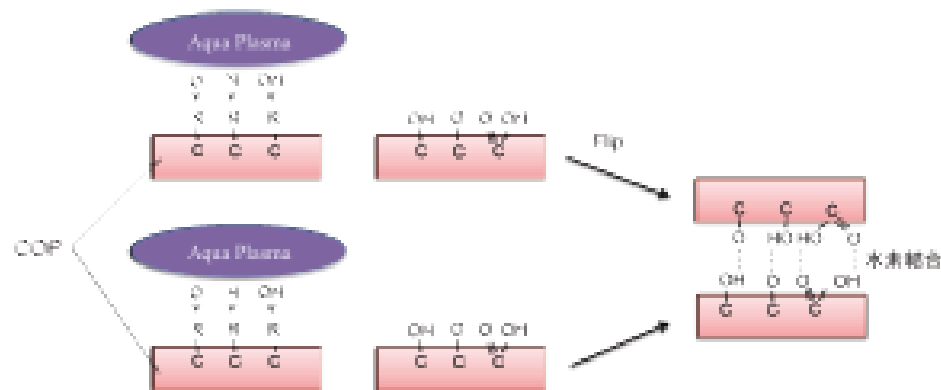
新規事業(ヘルスケア事業)

協業によるアクアプラズマの拡販へ

～マイクロ流体チップへの応用～

接着剤レス・常温で接合

樹脂の接合モデル



▶COPをAqua Plasma®で処理すると、表面にOHやCOOHが形成される。その官能基が水素結合により引き合うことで、接合していると考察

新規事業(ヘルスケア事業)

医療器具向けにアクアプラズマを応用したドライ滅菌装置を投入の予定。QMS (Quality Management System) 省令承認申請準備中。**東京大学にて評価中であり、装置完成と1号機の販売(2020年春)を計画。**



対象

カテーテル、内視鏡、手術用医療器具など

過酸化水素プラズマの問題点

- ・ 過酸化水素の強い腐食性
- ・ ガスの浸透性が弱く、内腔構造物の滅菌が困難
- ・ 高コスト

アクアプラズマ

- ・ 水蒸気を原料としており安全
- ・ 内腔構造物の滅菌が可能
- ・ 低コスト

お問い合わせ

サムコ 株式会社

広報・IR室

電話 : 075-621-7841

E-mail : koho@samco.co.jp

URL : www.samco.co.jp



薄膜技術で世界の産業科学に貢献する

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。